

# 茶ぐわくゆんたく



159

## 普天間本町通りの路地裏

— 十八番通り —

左上の写真は、1963（昭和38）年の、普天間の本町通りの写真です。この写真の右側にアーケードがみえますが、そのアーケードを抜けた路地裏には「十八番通り」と呼ばれる通りがあり、地元、沖縄の方向への飲食店が軒を連ねていました。この「十八番通り」という名前の由来は、通りの角に「十八番」という店名の

飲食店があり、そこから名付けられた通りでしたが、後にこの店は閉店し、店名を生かした通り名だけが残ったようです。

左下の写真は、現在の十八番通りの様子です。かつてのような飲食店の雰囲気はなくなり、アパートや民家の並ぶ住宅街となっています。



▲本町通り 1963(昭和38)年  
写真の右側のアーケードを抜けると、十八番通りへとつづく。  
写真:沖縄県公文書館所蔵



▲十八番通り 2017(平成29)年

## はくぶつかんの部屋 ③7

ガラクタに見えても実は…

博物館が行っている「わらばく体験じゆく※」でのお話です。

先日、じゆく生たちと一緒に博物館を探検したのですが、その際、普段は入れない「収蔵庫」も見学しました。じゆく生たちが、収蔵庫内に入った時には「木のいい匂いがする」と言う子もいれば、「何か臭い」と言う子もいて感想は様々ですが、ほとんどのじゆく生が「収蔵庫内の（昔の）モノの多さにびっくりした」といった感想を持ったようです。

博物館には、様々な資料を集めて保管しつつ、調査や研究を行い、その分かったことを展示で伝えたり、『宜野湾市史』などの出版物を作成したりしながら、後世に伝えていく役割があります。実際に、博物館で収蔵されているモノの中には、「材料が残っていない（手に入らない）モノ」や「作れる人がもういないモノ」など、同じモノを作りたいくても、簡単には作れないモノがたくさん収集されています。他にも昔のモノだけでなく、今、あたりまえにあるモノでも、いつかは無くなってしまったり、変わってしまったたりするかもしれない、特に宜野湾市に関する

様々な年代のモノも収集しています。ただ、収蔵庫に入る資料には限りがあるため、お引き取り出来ない場合もあるかもしれませんが、まずはご自宅にあるかもしれない「ガラクタ」が、本当に「ガラクタ」なのか、一度、見つめ直してみるのもいいかもしれません。そして「ガラクタ」ではないと思った時は、博物館へご連絡ください。

※わらばく体験じゆく

市立博物館が毎年、市内在住の小学5・6年生（30名）を募集し、6〜2月まで毎月1回、同じメンバーで、日常生活では関わることのない郷土の自然や文化など、体験を通して学習することを目的とした事業です。



〔大収蔵庫内の様子〕

【問合せ】市立博物館 ☎870-9317 入館料無料となっておりますので、お気軽にご来館ください。